

『子どもの手話』（12月15日配信）

こんにちは、戸田です。

今回は、子どもの手話のおもしろさ（魅力）についてお話しします。

私は、ろう学校の幼稚部で働いています。担当クラスの1人の男の子は魚が大好きです。イルカにクジラ、海の生き物博士の子がいます。

その子からいつも絵をかいとお願いされます。海の生き物の分厚い図鑑を渡され、このクジラを書いてと言われれば、模写します。それをはさみで切って、

渡します。すると教室の中で泳がせて遊ぶのです。それを毎日やっています。クジラにイルカ、いかにタコ、カメなど頼まれれば模写して渡しています。そんな

時、コバンザメを頼まれました。大きなサメやクジラのお腹あたりで一緒に泳ぐサメでコバンザメと言います。これを書いてほしいと頼まれました。模写して切

り取り渡すと、依然作った大きなクジラやサメの下で一緒に泳がせて遊んでいます。コバンザメの特性をよく知っています。海の生き物博士なので知識が豊富

何だと思います。後日、また書いてほしいと頼まれたのですが、今度は図鑑を指さすのではなく手話でした。パーにした左手の下で右手の人差し指だけちょこ

ちょこ動かしています。結局なにを書いてほしいの私がつかめずにいると、図鑑を持ち出しコバンザメを指さしました。私はコバンザメを小判と表しますが、そ

の子は、左手のパーを大きな魚にみたてて、その下を泳ぐ人差し指でコバンザメを表現していました。その子自身が考えたのです。大人なら、名詞としてコバン

ザメを小判サメと表現してしまうと思います。でも子どもは魚の特徴や形などから考えます。子どもの思考から出る手話は面白いですね。私も勉強になります。